

1954年山形県酒田市出身です。一級建築士。仕事のほとんどが伝統構法の住宅を中心とした木造です。2年前の4月に建交労の角田中央執行委員長、学童保育支部の田村書記長。名古屋市連協の賀屋氏との出会いが学童施設の木造化に突き進むきっかけになりました。

名古屋市内のあちこちで見受けるプレファブの建物は学生の頃から気になっていました。私達の現場でも良く設置するものですが、それが子ども達の施設と聞いた時の建築人としてのショックは今でも覚えています。半開きになったアルミサッシュから絶え間なく出入りする子ども達とその傍らに置いてある無造作な下駄箱と傘立ては決して美しいものと呼べるものではありませんでした。

設計をするとき、物を提供する事以上に大事なことは生活をj提供する事が我々の本来の仕事です。生活は快適でなければならない。快適にする為に提供するものには必ず良い面とそうでない面があります。何をチョイスするか？其れが「スタイル」です。「木」を使うスタイルに学童はなつてほしいと思っています。

木造（木）は私達の生活を快適にしてくれます。木材の調湿効果で夏はずずしく、木材の断熱性能で冬はあたたかい。特に「板倉構法」は昔から穀物や宝物の貯蔵に使用され、耐震性能や防火性能にもすぐれています。2010年に国が発した「公共建築物における木材利用の促進に関する法律」で公的な建物には積極的に木材を使用する事をうたっています。小学校の生活以上の時間を過ごす子ども達の「心象風景」に学童の建物が残るように今後も木造の学童施設の木造化を提案して行こうと思っています。